

蒼天

Volume 17
2018.06.

京都造形芸術大学・京都芸術短期大学
瓜生山同窓会会報
編集・発行：瓜生山同窓会事務局
〒606-8271
京都市左京区北白川瓜生山2-116
<http://uridou.jp>

京都は、変わらず世界有数の観光都市だ。京都の街並みや伝統的な芸能、歴史遺産を求めて日本だけではなく世界各国から観光客が訪れる。外からの人間が沢山来るこの街は、変化を求め続けられる。それは伝統的な技法でもとつた。受け継いできた技術を途切れさせず、尚且つ未来へと繋いでいかなければならない。多様な表現方法が確立された今の世界では、あらゆる形で伝統的な技法を見られるようになった。

その京都にある様々な技法の中に引箔ひきはくというのがある。これは京都西陣の箔屋に伝わる技法だ。金箔糸を緯糸に織り込んだもので、平金箔ともいう。二十四金あるいは銀をごく薄くのはし、和紙に貼ってから細く裁断して作られる。地はかさばらず平坦だが、金の光沢が豪華な印象となるため、主に改まった装いに用いる。引箔だけで文様を表した帯や、他の技法を併用して引箔の地に色系で文様を織り表したものもある。

その引箔の技法を用いた絵画、箔画を描く野口琢郎。本学では洋画を学び、卒業した彼が、京都の西陣で何を見、何を知り、なぜ箔画という表現に至ったのか。一つの表現を確立した彼がこの先どこへ向かうのかについて伺った。

「箔画」という表現 野口琢郎 洋画3期生

聞き手・早野素子

（瓜生山同窓会 顧問）

大学・彫刻1994年卒

文・添田陸

（大学・文芸表現学科1年生）

撮影・高橋保世

（大学・美術工芸学科2017年卒）

自友席
2018
FREE



なぜ箔画にたどり着いたのか

早野 今日はおよろしくお願ひします。二期生ですよな、洋画の。それなのにどうして箔画を？

野口 いきなりそこですか。どうして箔画を？ですよな。まず大学出た時点では画家になるなんて夢にも思わなかったです。もつて在学中に絵は向いてないって思ったんで。家業（西陣の箔屋）がこんな感じって言うのもあったし、後を継ぐのが僕じゃないかなんで、家を継ぐ前提で、親父に技術を教えてもらひはじめました。その時の僕には、義務感とか責任感しかなくて心から家の仕事をやりたいと思ってなかったんですよ。それなので全然力入ってなくて、親父に怒られました。織屋さんに弟子奉公で修行させてくださりってお願いをしに行っただんですよ。昔のうちの御得意さんだったので社長も知っていました。親父と一緒に頭下げ、「どうして使ってくださいって」頼みごみました。そしたら、今の時代弟子奉公は逆にややこしいから給料やるし明日から来いって言われたんですよ。その日にスーツ買いにいって、三年ちよいへらひサラリーマンやって、西陣の勉強をしました。でもサラリーマンをずっと続ける気もないんですよ。いつかは家も継がなきゃいけない。サラリーマンの仕事って言うのも製造部の外回りなので、基本外を走っているんですよ。仕事を覚え始めた一年半くらいは楽しかったです。ただ、西陣の景気がどん底で、仕事がどんどん減るようになって段取りよく僕ができるようになってからヘース落とせて言われたんですよ。素早く新しいのを作っても全然売れないんですよ。そしたらテンション下がるじゃないですか。段々それが嫌になっていって、やる気もなくなくなって、どうしようって思ったんですよ。でもまた家の仕事はしたいとまだ思っていたんですよ。そんなときに僕写真やっていたじゃないですか。

早野 はい。写真部でしたっけ？

野口 そうですよ写真部です。卒業制作も写真でした。それで話は戻って、サラリーマン終わりの頃に親父がまた、東松照明先生という写真家の先生が大阪で個展はるからってお前も来いって言うのできて。東松先生との出会いは知ってましたっけ。

早野 いえ、そこまでは

野口 出会いは、僕が中学二年生のときに家族旅行で八里島に行った時です。親父が日芸の写真学科だった影響もあって、僕もそのころにはカメラに親しんでいました。それで、あるお寺に行ったんですよ。親父はちよつと車の中で休憩して、僕は寺院の中をカメラもって、走り回って写真を撮っていたんですよ。そしたら日に焼けた夫婦を発見して、その夫婦のご主人さんが、親父と同じカメラを使っていたんですよ。それで親父を呼びに行っただんですよ。うちの親父あんまり怖気づいたりしないじゃないですか？

早野 確かにいつも筆々としてらっしゃいますもんね。僕も子供ながらにその見てたんですけど、親父がそのご主人を見た瞬間に「はあー!!」ってなりました。「あの、東松先生でいらっしゃいますか？」って言ったんですよ。その時代の日芸写真学科の生徒にとっては神様みたいな人だったんですよ。親父がこんなに腰が低いのを初めて見たと思ってすごい衝撃で、存在を覚えていたんですよ。出会ったことを、僕はそのころの事はすっかり忘



れて大学生になりました。その間に東松先生との

親交はあったんですよ。それで僕がサラリーマン終わるころに大阪で個展をされていたから、親父にもオーブニング来いって言われて、行っただんですよ。で、僕は仕事の後なんてスーツで行ったら親父はすでに少し酔っていたんですよ。そしたら「琢郎を好きに使ってください」とか言ってるんですよ。親父は何を言ってるんだらうなって思ったけど、ああ、そういうのもありだなとも思っただんですよ。親父は、たぶん本当に酔っていたわけ

はなかったと思います。ただ、僕が家業をやる気はないのわかってたし、サラリーマン続ける気はないというのも分かってたんで、また違うところに放り出さうという気だったとおもいます。けれど、東松先生は弟子を取らない主義なんです。だから、助手は奥さん。先生その時七十歳くらいだったかな。で奥さん五十歳。僕、二十五、六歳。だから、奥さんが奥さん兼助手なんですよね。だからその時は、一度家に遊びに来なさいよと言われて、千葉の家に行きました。そこで弟子を取らない理由を「他人が介入するのが嫌だ」と言われ、「でも養子になるならいい」とも言われたんですよ。養子……。東松琢郎がって思って。さすがにちよつと怖気づきましたよね。急に嫁に行くようなものじゃないですか。さすがにちよつと決断ができずにそのままにしていたんですよ。それでもうこの話はなくなっただかかって頃にまた大阪で個展を開かれるとのことだったので、またオーブニングに行っただんですよ。そしたら今度長崎に遊びにきなさいと言われたんですよ。一九九九年の年末に行って、顔だけ出して年内に帰るつもりが、年末年始行事があっているいる撮るものがあるから、お試し助手やるかって言われて、年明け二日か三日住みこんで助手をやったんですよ。そしたら帰るときに琢郎君は生理的には合うから一年間だけでもいいって言われたんですよ。だから、一年間だけは養子にならなくていいって言われたんですよ。それで、ありがたございまして言って、また帰ってきますって言って、京都帰ったんですよ。

早野 会社辞めてきますか。って聞いてますよね。
野口 そうです。一月五日の仕事始めの日にスーツ着て

出社して、新年の挨拶ですよな、「あけましておめでとございませう」って社長にあいさつして、一通りの流れが終わった後に社長に「ちよつとお話があるんですが、やめさせてください」。「なんじゃおまえはー」ってなって。年明けにやめさせてくれってないですよな。

早野 それはもう面白い話ですよ。あけましてやめさせてくださいって言ってもいいですよな。
野口 そうなんです。それで、ちゃんと引き継ぎますから、次の人雇うまでってなって。でも、社長下短気なんで優しいさもあつたかもですけど、やめるってわかった人間に給料払いたくないって言うのもあったんですよ。なんで一月十日か十二日くらいには、「お前もつ明日から来なくてもいい」って言われて、「すみません。ありがたございませう」って言って、一人暮らしもしてたんですけど、そこも引き払って、二月の頭に長崎に飛びました。で、まあそこから一年間なんですけど。それから一年後、いろいろありつ、二〇〇一年の二月、京都に帰ってきました。やっときましたね京都市。

早野 やつとですね。おかし。
野口 たいいいます。それで長崎にいたおかげでやつとやりたかったんですよ。
早野 家業を？
野口 そうですね。初めて京都から離れて、周りから言われるんですよ。そんな京都の西陣の、京町家みたいなところで四代も続いている家業があつて、それを継がないで君はここで何をしてるの、っていつのをよく言われたんですよ。まあ、なるほど。こつ思われるんだと知りました。何かを作りたいという気持ちは強かった。京都のありがたみや親のありがたさも分かった。なので、継がせてくださいと親父に頼みました。親父は最初、どん底の西陣でかわいい息子に継がせるのは酷だ、こつこつで継がなくていいと言っていたんですけど、なんだかんだ喜んでくれました。で、さやちよつと仕事を取りに行こうってなつたときに仕事がないんですよ。で、まあ、どうしようかなと、思いつくのは絵しかないな。

早野 やつと、絵が来ましたね。
野口 やつときました。僕にできる新しいことを言ったら絵しかないとなつて絵をやり始めましたね。

二〇一七年度(平成二十九年) 瓜生山同窓会 活動報告

(基) 〓 基本事業 (特) 〓 特別事業
(本) 〓 本部事業 (支) 〓 支部事業
(分) 〓 分科会事業

平成29年

- 4月2日 (支) 中部支部会議
- 4月17日 (本) 第一回役員会
- 4月30日 (支) 東京支部会議
- 5月12日 (支) 美唄支部事業打合せ
- 5月8日 (分) ビジュアル・情報デザイン、子供芸術学科合同分科会
- 5月30日 (支) 北海道支部事業打合せ
- 6月 (基) 会報『蒼天』発行
- 6月4日 (支) 中部支部事業打合せ
- 6月17日 (支) 美唄支部同窓会開催
- 7月3日 (本) 第二回役員会
- 7月9日 (本) 瓜生山同窓会総会/運動企画
- 7月10日 (支) 九州支部会議
- 8月19日 (支) 九州支部事業打合せ
- 9月11日 (支) 広島支部会議
- 9月12日 (本) 京造ねぶた表彰式
- 9月17日 (特) ホームカミングデー
- 9月28日 (基) 第三回役員会
- 10月8日 (支) 東京支部同窓会開催
- 10月21日 (支) 九州支部同窓会開催
- 10月22日 (支) 広島支部会議
- 11月5日 (支) 中部・静岡支部同窓会合同開催
- 11月19日 (支) 北海道支部同窓会開催
- 11月26日 (支) 広島支部会議
- 11月21日 (分) U.S.E. 10

平成30年

- 1月30日 (支) 美唄支部会議
- 2月 (基) 中間監査
- 2月12日 (基) 中間報告会
- 2月14日 (支) 美唄支部会議
- 2月 (基) 卒業制作展支援
- 3月3日 (支) 東京支部打合せ
- 3月16日 (支) 広島支部同窓会開催
- 3月24日 (基) 第四回役員会
- 3月31日 (基) 2017年度決算

■梅田美代子教授 退職記念「表現する遺伝子展」

日程：5月8日(月)～14日(日)

◎2017年3月末をもって退職された梅田美代子教授の退職記念として、先生が教鞭をとられたコース・学科の卒業生や関係の方々から募ったサムホールサイズによる展覧会を開催しました。Galerie Aube を会場に、2017年5月8日～14日の会期で、最終日の懇親パーティーまで盛会のうちに終えることができました。

四百年超の出品、7日間で千名を超える来場者を迎えた本展は、

瓜生山同窓会の協賛、京都芸術短期大学ビジュアルデザインコース、京都造形芸術大学情報デザイン学科

とこども芸術学科の3つの分科会合同でおこなった事業です。実に多彩でユニークな展覧会となり、瓜生

山学園と卒業生、関係の方々を結ぶたいへん貴重な機会となりました。(表現する遺伝子展 実行委員会

渡部隆志(瓜生山同窓会 副会長))



広島支部同窓会事業報告

今回の広島支部では、広島市内の同窓生だけでなく、中四国在住の会員を中心に大勢の仲間が集まりたいという思いから、瀬戸内地域を舞台とした事業を開催しました。タイトルを「貸切バスで行く大人の遠足〜初春の直島アート散策〜」とし、広島をスタートした観光バスが倉敷を経由し、直島まで皆さんをお連れするという内容です。16日は倉敷の美観地区を自由に散策し、夜は懇親会で杯をかわし大いに盛り上がりました。17日朝に倉敷をバスで出発し、宇野港からフェリーで直島へ。李禹煥美術館、地中美術館、ベネッセハウスミュージアムを順に巡りました。圧倒的な自然を背景に、現代美術の作品群と安藤忠雄建築を堪能しました。対象地域以外の会員からも同窓会公式サイトにて参加申込を受け付けたので、関東や関西からも多くの方がお見えになり、合流・解散のポイントを任意に選択できるようにしたことも好評でした。

会員の家族も交え、3歳児から80代までと幅広い年代の参加者がそれぞれに楽しめる素敵な企画となり、今後の活動につながる大きな気付きを得ることができました。(菱田)



2017年
6月

■美唄支部同窓会

日程…6月17日(土)～25日(日)
概要…BIBAIでアート&

京都造形芸術大学教員と北海道OB展・ワークショップ
会場…展覧会 安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄
ワークショップ…ストウディオアルテ (アルテピアッツァ美唄内)

講師…仁尾敬二先生(染織コース教授)

◎展覧会には卒業生と教員が出席。日本画、洋画、陶芸、染織、芸術学、デザインと出展のジャンルも幅広く、壁面立休、論文のコラボで多彩で見ごたえのある展示空間となりました。ワークショップでは仁尾先生のご指導のもとバスケットリーのワークショップを開催。籐を手にとり、嬉々として制作しながら皆さん交流も楽しめました。(北川)



■瓜生山同窓会総会・連動企画

日程…7月9日(日)

◎総会を京都芸術デザイン専門学校希望館5階 K1151教室にて開催しました。
また第2部の連動企画は京都御所等皇室ゆかりの地を参観し木屋町のたん熊にて懇親会を開きました。(富家)



2017年
9月

■ホームカミングデー2017

日程…9月17日(日)

◎昨年度、学園祭2日目に開催予定のホームカミングデー2017でしたが、残念ながら台風の直撃により中止となりました。本年度も開催予定ですのでご期待下さい。(小川)

■東京支部同窓会

日時…10月8日(日)

概要…小川流煎茶「煎茶を楽しむ会」の体験と懇親会
会場…第一部 お茶会体験 明治神宮 隔雲亭
第二部 懇親会 ぎょうお新宿店

講師…小川後楽先生(小川流煎茶七世御家元)

◎第一部では小川流煎茶の煎茶を楽しむ会、レクチャーを受けその後お茶席を体験。
第二部は会場をかえ、ぎょうおにて懇親を深めました。(早野)



東京支部同窓会

小川流煎茶「煎茶を楽しむ会」の体験と懇親会

2017年度の東京支部では、小川流煎茶七世御家元小川後楽先生ご協力のもと煎茶席の体験会を実施しました。茶の湯のお茶会経験がある方は多いと思われれますが、本物の煎茶の世界を体験し、芸術の秋の一日をお過ごし頂こうと企画しました。

当会でも九州や静岡などの支部事業にご協力頂いていた先代小川後楽先生は、煎茶は芸術家や文人達に愛され、煎茶の傍らには風雅な文化や芸術があったと仰っていました。現代の私たちの生活の傍らにある日常の煎茶とは異なる、豊かな感性にこそ響く極上の煎茶の茶味を一番いい季節に、元々煎茶の茶席として建てられた明治神宮の隔雲亭で体験できる大変貴重な機会でした。緑が豊かなお茶席で、当代小川後楽先生の後見で説明を受けつつ煎茶席と玉露席の二席を体験して、日常とかけ離れた馥郁たる煎茶に感嘆の声が上がっていました。第二部のぎょうおではテーブルごとにいけすで自分たちが釣ったお魚を頂き、懇親を深めました。参加者の皆様からも喜びの感動のご感想を多数頂きました。

また今回はお茶席の定員から、キャンセル待ちの企画となりましたので参加頂けなかった方にもまたチャンスがあれば企画したいと思っております。(早野)



2017年
10月

■九州支部同窓会〜キャラバン同窓会 第一弾〜

日程…10月21日(土)

会場…第一部/講義&探索:T K P熊本カンファレンスセンター&熊本城
第二部/懇親会:和風酒処 おるげんと下通り店



講師・石神裕之先生（考古学者・京都造形芸術大学 歴史遺産学 准教授）
講義テーマ：「熊本城の被害と、これからの復興に向けて」と熊本城見学

◎歴史遺産学科の石神先生をお迎えし、2016年の熊本大地震における被害、修復の現状や復興に向けた試みについての詳細の講演を頂きました。またサプライズ企画にて熊本現代美術館の学芸員の佐々木玄太郎氏もご参加頂き12月に開催される企画展「熊本城 × 特撮美術 天守再現プロジェクト」のご紹介をして頂きました。講演後は石垣の時代を考察しながら修復中の熊本城を見学した後、佐々木氏のご好意により熊本現代美術館の企画展「誉のくまもと」展へ学芸員の解説付きで見学させて頂き大変充実した見学会となりました。懇親会では石神先生とお城と石垣、文化遺産について熱く語り合われ大変盛り上がり 있었습니다。（岸田）

■中部・静岡支部統合特別企画「美術をめぐる一日」

日程：11月5日（日）

◎静岡にて開催致しました。昼の部として美術工芸学科よりお招きした柴田純生教授に立体造形に関して、また奥村美佳 准教授には江戸期の庭園画について講義を頂いた後、静岡県立美術館にて「ロダン展」と「庭園画」等を鑑賞し、夜の部は先生方とご一緒にパルコ八菜ドウブランシエにて楽しい懇親の場で盛り上がりしました。（小川）



■北海道支部同窓会

日時：11月14日（火）～19日（日） 午前10時～午後6時（最終日午後4時半まで）

会場：展覧会 大丸藤井セントラル(株) 7階 スカイホール

懇親会 ホテル札幌ガーデンパレス

概要：「第11回 North-Khaos 展 2017」講演会とギャラリートーク

講師：梅原賢一郎先生（アートプロデューサー 学科教授）

◎第11回目となるOB展「North-Khaos 展 2017」と、最終日に梅原先生による講演会「豊かな感覚生活を送るために」を開催、



2017年総会連動企画報告

2017年7月9日（日）総会を京都芸術デザイン専門学校希望館5階 KI151教室にて開催しました。長期間務められた菱田前会長から代替わりし、新たな役員構成にて再出発しました。同窓会も黎明期は過ぎ、成熟期へと向かう中間期として位置付けで事業を運用していくことが新会長挨拶よりありました。

第2部の連動企画は京都御所等皇室ゆかりの地を参観し懇親会を開きました。京都御所をめぐる王朝文化としての寝殿造の御殿を平安期の内裏のプランや源氏物語に出てくる六条院などの資料と比較しながらガイドの会長から説明がありました。清涼殿の空間構成は他の建築とは異質な構成で文化背景の理解を持たなくてはならないものでした。また、青不動で有名な門跡寺院の青蓮院と東山山麓に北野にあった武徳殿を移築した青龍殿と將軍塚を拝観。その後は木屋町のたん熊にて懇親会を開きました。（富家）



先生に展覧会への講評をいただきました。(小川)

■彫刻・立体・総合造形分科会 展覧会「U.S.E.'10」

京都造形芸術大学(彫刻・立体造形・総合造形コース)・京都芸術短期大学(立体コース)・卒業生・在校生・研究室による作品展
52名の出品者によるミニアチュール展及び選抜展
日程：11月21日(火)～26日(日)

会場：ギャラリーマロニエ
講演会・懇親会・授賞式

講師：柴田純生教授(美術工芸学科)

テーマ『彫刻OB会/U.S.E.展、10年を振り返って』

会場：丁子屋

授賞：総合造形研究室賞【OBより2名】岸田章弓乃、永島信也

彫刻OB会会長賞【学生より1名】山田 遼太郎(学部4回生)

◎瓜生山に所縁ある彫刻家達による展覧会を目的に開催されたU.S.E. (UryuYama Sculptors exhibition)展も今回で10回目を迎えました。年々、参加者も増え、短大・立体造形大・彫刻・立体造形・総合造形の合同となり、展覧会を通じて世代を超えた卒業生の交流も盛んに行われ、一つの行事と定着しました。今年も10回目を節目であり、また彫刻の恩師である柴田教授の還暦のお祝いも兼ねて、柴田教授による10年に渡る展覧会の講演と懇親会を開催致しました。(彫刻OB会会長 塚本)

■卒業制作展支援事業報告

日程：2月10日(土)

◎2018年2月10日卒業制作展オープニングパーティーには同窓会会長の冨家が参加し壇上にて同窓会のアピール等学生に向けコメントしました。また2月18日同展クロージングパーティーにも参加し、会期中制作展を廻り各授与者の作品を確認しましたうえで、授与者代表で環境デザイン学科の高橋 創君に直接同窓会賞の授与を行いました。パーティーでの提供している食事については例年すぐに学生の胃袋おさまる食事の量が足らなかつたこともありましたが、今年により充実させましたので満足いく量が提供できたと感じます。最後に制作展後卒業される学生諸君がこれからの同窓生になって同窓会をより層の厚い会としていくのだという自覚を持ってもらいたいとコメントしました。(冨家)

■広島支部同窓会

日程：3月16日(金)～17日(土)

会場：16日：倉敷美観地区、懇親会(クォーレ倉敷)

17日：直島(地中美術館、李禹煥美術館、ベネッセハウスミュージアム)

◎「貸切バスで行く大人の遠足」初春の直島アート散策」と題し、広島エリアの同窓生だけでなく中四国地区在住の皆様にも案内を発送し、サイトから応募された関東・関西からの参加とも一緒に、倉敷での懇親会から快晴の直島を二泊二日で巡りました。(菱田)

□他、OB・OG展援助、準会員支援としてねぶた制作の支援、朝食プロジェクト等を行いました。



二〇一八年度役員紹介

〔役員〕

会長：冨家裕久(大学：環境デザイン1995年度卒)
副会長：渡部隆志(短大：ビジュアルデザイン1987年度卒)
副会長：小川真理子(大学：彫刻1996年度卒)
会 計：北川真理子(大学：文化財科学1999年度卒)
書記：森梨絵(大学：ことば芸術学科2010年度卒)
庶務：菱田太郎(大学：彫刻1995年度卒)
庶務：北村奈世(大学：染織2001年度卒)
庶務：岸田あゆち(短大：立体1990年度卒)
顧問：目良義夫(短大：インテリアデザイン1986年度卒)
顧問：早野素子(大学：彫刻1994年度卒)

〔監査〕

飯田芳清(大学通信：陶芸2006年度卒)
内藤邦博(短大美術史1988年度卒・日本画1990年度卒・短大専攻日本画1992年度卒)

〔幹事〕

山本慶太(大学：芸術学1997年度卒)
吉村龍二(短大：美術史1989年度卒)
北川真理子(大学：文化財科学1999年度卒)
奥村直美(大学：映像芸術2002年度卒)
池田亜耶子(短大：映像1997年度卒)
栂谷雄一郎(大学：映像・舞台芸術学科2003年度卒)
後藤吉晃(大学：日本画2005年度卒)
内藤邦博(短大：日本画1990年度卒)
岡林真由子(大学：洋画2005年度卒)
山本芳正(短大：洋画1987年度卒)
岸田あゆち(短大：立体1990年度卒)
田中良昭(短大：陶芸1978年度卒)
西本宏和(大学通信：陶芸2001年度卒)
志村徹也(短大：染織1990年度卒)
北村奈世(大学：染織2001年度卒)
パロン利名(短大：ファッション1991年度卒)
遠藤伸也(大学：空間デザイン2002年度卒)
山口麗音(大学：情報デザイン2008年度卒)
野口学(大学：ファッション2002年度卒)
杉本尚也(大学：環境デザイン1997年度卒)
渡部隆志(短大：ビジュアル1987年度卒)
木村行伸(短大：インテリア2000年度卒)
片石高幸(短大：ランドスケープ1981年度卒)

〔支部〕

〔北海道〕
支部長：中田登(大学通信：洋画2004年度卒)
副支部長：五十嵐伸幸(大学通信：陶芸2005年度卒)
佐藤きわ子(大学通信：染織2005年度卒)
〔美唄(北海道)〕
支部長：五十嵐伸幸(大学通信：陶芸2005年度卒)
大井恵子(大学通信：染織2002年度卒)
佐藤きわ子(大学通信：陶芸2005年度卒)
〔東京〕
支部長：矢波由香(短大：インテリアデザイン1994年度卒)
長谷川雅啓(大学：文化財科学1998年度卒)
花本紫乃(短大：日本画1994年度卒)
坂本千弦(大学：洋画2005年度卒)
早野由希(短大：洋画1994年度卒)
〔長野〕
支部長：塚原延夫(大学通信：芸術学2004年度卒)
〔中部〕
支部長：宮崎敦子(大学通信：ランドスケープデザイン2003年度卒)
〔兵庫〕
支部長：小川陽平(大学：大学院環境デザイン2006年度卒)
副支部長：砂原勇紀(大学：環境デザイン2006年度卒)
会 計：矢橋奈美(大学：美術工芸2006年度卒)
砂原明子(大学：美術工芸2006年度卒)
松本圭介(大学：環境デザイン2005年度卒)
東郷剛宗(大学：環境デザイン2010年度卒)
〔香川〕
支部長：清水晃(短大：ビジュアルデザイン1979年度卒)
〔岡山〕
支部長：仁城亮彦(大学：情報デザイン1994年度卒)
〔広島〕
支部長：河本茂(短大：建築デザイン1990年度卒)
副支部長：木村理恵(短大：洋画2000年度卒)
関由利(短大：洋画1979年度卒)
溝部正次(大学通信：洋画2012年度卒)
〔九州〕
支部長：菅村麻衣子(大学：芸術学1994年度卒)

二〇一八年度(平成三十年度) 瓜生山同窓会 事業計画

*企画の詳細は決まり次第、順次同窓会webにて公開します。
郵送のご案内は通常、開催地近隣の住所をお届けの同窓生を対象に実施していますが、遠方からのご参加も大歓迎です。
ぜひ懐かしいお友達とお誘い合わせの上、ご参加ください。

〔本部〕瓜生山同窓会 総会／連動企画 港町伏見

大人の散策・酒蔵歴史ウォーク

日程：7月21日(土)

第一部 総会 午前10時30分

第二部 連動企画 午前11時55分

会場：第一部 京都芸術デザイン専門学校
希望館5階K1-51教室

第二部 京都伏見

※詳しくは本誌裏面をご覧ください。

〔支部〕美唄支部同窓会

日程：8月25日(土)

会場：ギャラリー門馬&ANNEX(札幌市中央区
旭ヶ丘2-3-38)

講師：中山博喜先生(創造学習センター准教授)

概要：例年開催BIBA Iでアート 京都造形芸術
大学職員と卒業生の合同展覧会、開催中の会
場で今年には写真家の中山博喜先生をお迎え
してワークショップを開催します。

WS開催後は先生を囲み懇親会を同会場で
開きます。

〔支部〕東京支部同窓会

歌舞伎座または演舞場にて開催の「歌舞伎の観劇」
を実施致します。

日程：8月

会場：東京 歌舞伎座または演舞場

概要：会報誌編集時点で講演内容に関し非公開情
報が含まれる為、詳細は明らかに出来ません
が、お手元に届く頃には発表出来ると思われ
ます。募集人数にも制限がありますので当会
ホームページを是非とも確認お願いします！

〔特別〕第3回ホームカミングデー

日程：9月16日(日)

概要：詳細は決まり次第同窓会ウェブサイトで等
告知します。

〔支部〕北海道支部同窓会

第12回 ノース・カオス展 2018

日程：11月13日(火)～18日(日)

午前10時～午後18時(最終日午後4時半まで)
イベント日程：11月18日(日)午後一時半～午後8時半
会場：第一部 大丸藤井セントラル7階スカイホール
第二部 懇親会

テーマ(仮)：身体と芸術 本学教員による
ギャラリートーク(合評形式)

〔支部〕九州支部同窓会

尼崎博正先生と巡る西郷どんゆかりの庭園

日程：11月18日(日)

会場：鹿児島県鹿児島市

講師：尼崎博正先生(環境デザイン学科教授・日本
庭園研究センター所長)

概要：「尼崎博正先生と巡る西郷どんゆかりの庭園」
と題し、大河ドラマ「西郷どん」で熱い鹿児島
にて開催致します。在学生はもちろん、卒業
生にも大人気の尼崎先生のレクチャーを受
けながら仙巖園などを巡ります。奮ってご参
加下さい！

〔支部〕広島支部同窓会

日程：2018年度内

概要：懇親を目的とした事業を開催予定です。詳細
が決まり次第、公式サイトでお知らせします。

〔支部〕中部支部同窓会

日程：2019年2月頃

概要：明年平成31年2月頃に開催を予定で現在企
画中です。

詳細は秋頃に瓜生山同窓会ホームページ等
にてお知らせ致します。
乞うご期待です！

〔分科会〕彫刻・立体・総合造形分科会 U.S.E.11

概要：京都造形芸術大学(彫刻・立体造形・総合造
形コース)・京都芸術短期大学(立体コース)・
卒業生・在校生・研究室による作品展

日程、会場、講演会、懇親会：未定

〔本部〕

その他 OB・OG展援助、朝食プロジェクト等
役員会、支部MT適宜開催



2018
年度

瓜生山同窓会、
総会を開催します

第一部 総会

2018年7月21日(土) 10時30分開会 (10時受付開始)
会場 京都芸術デザイン専門学校 希望館5階 KI-51教室

第二部 〈総会連動企画〉

港町伏見 ～大人の散策・酒蔵歴史ウォーク～

伏見は豊臣秀吉が伏見城を築城する際に資材運搬のために伏見港を開いたことから、京都・大阪・奈良・近江をつなぐ陸路・水路の要所として発展し、長らく城下町として栄えてきました。今もその面影を町並みに残し、酒造りの町として全国に知られる伏見を舞台に幕末から現代までの歴史を徒歩と十石舟でたどる「大人の散策」をお楽しみ下さい。懇親会は鶏肉と日本酒にこだわりながら、やすらぎの時間と空間をお楽しみ頂ける「鳥せい」にて行います。是非ともご参加下さい。

11時55分 人間館 階段下集合

12時00分 ジャンボタクシーにて移動 → 松本酒造酒蔵をバックに川沿いで集合写真(一時下車) → 寺田屋見学 → 大倉記念館(月桂冠)見学 徒歩にて移動 → 二班に分かれて十石舟に乗船その後自由時間

17時00分 懇親会：鳥せい(京都府京都市伏見区上油掛町186 TEL：075-622-5533)

第二部会費 ◎4,000円 (定員40名先着順)

参加申し込み

瓜生山同窓会ホームページ『イベント』の総会企画のページから簡単にお申し込みいただくことができます。FAXでのお申し込みも可能です。(同封の申込用紙をご利用下さい。)

「イベント参加申込フォーム」からのお申し込みの場合は必ず備考欄に以下の記入をお願いします。

参加区分 第1部(総会)のみ or 第2部(総会連動企画)のみ or 両方参加をお知らせください
同伴者の有無 同伴者がおられる場合は、同伴者氏名をお知らせください

申し込み締め切り

◎7月9日(金) 必着

手配の都合上、定員に達し次第申込を終了させていただく場合がございます。

何卒ご了承くださいますようお願い致します。

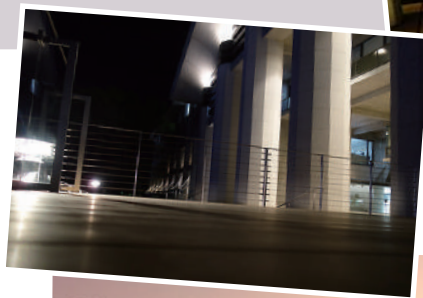
新たな学園のスポット「風の舞台」完成

3月16日(金)、大階段に夕焼けをより印象的に眺められる「風の舞台」が完成しました。

「風の舞台」のデザインは、環境デザイン学科の城戸崎和佐教授。黒に近いグレーに塗装したスチール製のアーチ4本は、パリのセヌ川にかかるPont des Arts(ボンデザール=芸術橋)の橋脚のデザインを現代の技術で置き換えたもの。レーザーカットされた鉄板によるシームレスな美しいデザインと、支点を階段の上部と中間の2点とする事で、先端に支柱のない軽やかな構造が実現しました。

「風の舞台」は、Pont des Artsの「芸術橋」と学園歌「59段の架け橋」という由来を持ち、学生たちの青春の舞台であると同時に、未来への橋である事が表現されています。

また、「風の舞台」完成に伴い、人間館の回廊は「風の回廊」と命名されました。大階段に設置されている彫刻家・武藤順九氏の作品「風の環」とあわせて、「風」の名を冠した3つのスポットが生まれたこととなります。ぜひ「風の舞台」を積極的にご活用ください。



編集 後記

今年も「蒼天Vol.17」をお届けできました。今年早くから気温が高く、京都市内の桜も早く咲き、あっという間に散ってしまいました。私も気温についていけず大変でした。皆様も体調にはお気を付け下さい。さて昨年度より新体制で運営を始めております。引き続き同窓会員の皆様と大学を繋ぎ、そして、大学・同窓会、そして会員の皆様が楽しめる企画・事業を企画していく予定ですので、お一人でも大丈夫です、是非ご参加ください。(小川)